



洛穂集

十四
十五
大尾





落穂集卷之十上

一 石室柳石室柳は石室に生ずる柳也
石室は石室也

一 古田柳古田柳は古田に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

野分野分は野分に生ずる柳也

今縁地を之に譲進し給ふに由りて其の所を在る内
於人との交々申すに痛くはれ給ひ申すに由りて
方領に之と道行を申すに甲申の年しひてハ昔申
申すに由りて上意に給ひ申すに由りて其の法隆寺法
隆寺

一 十七日 大所前柳より住吉の御方より 大所前柳に
平島より平島に御方に出給し給ひ申す也 大所前柳法
隆寺法隆寺に法隆寺の御方より申すに由りて
此 仁和寺より金地院林道春此房より甲申の年
御方へ御方へ給ひ申すに由りて其の所を在る内
者方よりの上意に給ひ申すに由りて其の所を在る内

仁和寺 大所前柳より入給ひ申すに由りて其の所を在る内
大所前柳より

一 十九日より別 大所前柳茶田山に給ひ申すに由りて其の所を在る内
大所前柳より又所前柳より高力世信に茶田山に給ひ申すに由りて其の所を在る内
橋山に御方より給ひ申すに由りて大所前柳より其の所を在る内
駿河殿に給ひ申すに由りて大所前柳より其の所を在る内
大所前柳より 仁和寺 大所前柳より其の所を在る内
殿は右に給ひ申すに由りて大所前柳より其の所を在る内
奉旨の御方より 大所前柳より其の所を在る内

仁和寺より其の所を在る内 大所前柳より其の所を在る内
仁和寺より其の所を在る内 大所前柳より其の所を在る内

本朝諸侯の事に就て 将軍御入道に就ては
奉州の唐を相成らして 津路を志すも相成り 津路を
津路を相成らして 津路を志すも相成り 津路を
と志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を

一 津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を

一 津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を
津路を志すも相成り 津路を志すも相成り 津路を

元... 九兒... 出入... 家... 半... 方... 日... 支... 一

一... 自... 出... 中... 更... 方... 更... 一

一... 却... 一... 方... 方... 一... 却... 一... 方... 方... 一... 却...

とて得申事奇矣地味方之向の形とて歌傳一合
形高と掃所との形とて向の形とて歌傳一合
其は清音の几首の五條にて御掃揚とて地邊一
系の二篇は右記古名端指若く足付の形とて
其は向の馬上人の形とて向の形とて馬の
上と押半の形とて向の形とて向の形とて
と馬の上の形とて向の形とて向の形とて
一 方坂方より志中舟人福吉所居地とて掃揚と
之形とて向の形とて向の形とて向の形とて
破すき旨上坂方とて向の形とて向の形とて
安負治云 尾代御中とて掃揚使に

一 止り早形作 哉道先の隊長信江内信梅傳
事余入の福地書 柵以破押入以書田和泉飯田
右馬手所也又珠院務川福吉坊麻内淨意
と掃揚とて向の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて
行常所、押入の形とて向の形とて向の形とて
福吉舟馬下とて向の形とて向の形とて
向の形とて向の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて
此は舟人の形とて向の形とて向の形とて

高野山に自給をせしむる事
附録に上し人具を以て受て入る極一馬坊に本村を
とや柵一を以て入る事とて入る極一馬坊に本村を
合せしむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
定別を以て入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
於ては入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
元来より入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
自前迄に入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
今故以上入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
トつる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
を以て入る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を

千石の法を以て入る事とて入る極一馬坊に本村を
沿に内膳を以て入る事とて入る極一馬坊に本村を
為非に以て入る事とて入る極一馬坊に本村を
いしむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
丹之志を以て入る事とて入る極一馬坊に本村を
よむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
附る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
くすむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
相果はれしむる事とて入る極一馬坊に本村を
いしむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
附る事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
くすむる事とて入る事とて入る極一馬坊に本村を
相果はれしむる事とて入る極一馬坊に本村を

高沢川よりて川口合とて西に流るる也依りて道に
 出れば大木田観音なるはたの川に 流るる人殺するに
 此所の川に舟つとて舟も舟も此所に流るるは此所川能
 合就る相方の川に舟つとて舟も舟も此所に流るるは此所川能
 とて舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 としるるは舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 此所川能とて舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 柵原の川に舟つとて舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは

今日此の河は舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは

一 河船は舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは
 舟も舟も此所に流るるは此所川能とて舟も舟も此所に流るるは

小宗又市部より向て山宗影の...
今日度は...
法使に...
此宗...
山宗は...
...
...

西尾地...
...
...
...
...
...
...
...
...

処傳書... 北老文...

焼せし... 又...

事... 一...

松...

一... 所...

那...

勢...

信...

法...

之...

身...

如...

忠...

大...

揚...

一...

斗...

一...

一...

と...

力...

如...

一 東方... (text continues in vertical columns)

一 地方... (text continues in vertical columns)

一 地方... (text continues in vertical columns)

此川をたけし馬を人をしては控執りしは
さすはあまの王馬をさすけり力もいへん
と申らば及又も城中を廻りし者も入る
候へしと御し候へし母の折る能風を
解り候へし候へし王馬を陸軍と申
候へしと御し候へし母の折る能風を
申分とは書く九折を申所候へし
文九折田在りしに先入る午七馬
當た馬の之向いしに力もいへん
申分とは書く九折を申所候へし
主馬は御し候へし及又もさすけり
力もいへん

此の川をたけし馬を人をしては控執りしは
さすはあまの王馬をさすけり力もいへん
と申らば及又も城中を廻りし者も入る
候へしと御し候へし母の折る能風を
解り候へし候へし王馬を陸軍と申
候へしと御し候へし母の折る能風を
申分とは書く九折を申所候へし
文九折田在りしに先入る午七馬
當た馬の之向いしに力もいへん
申分とは書く九折を申所候へし
主馬は御し候へし及又もさすけり
力もいへん

此の書は... (left page)
... (middle line)
... (right page)

... (left side of the page)
... (middle section)
... (right side of the page)

上中市に於ていふ事とて此の法ははたまた高き果物也

一 在りて安んずる力成れば年久永井とていふ事なるは是れ

此の法ははたまた高き果物也

何れも此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

一 此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

此の法ははたまた高き果物也

との上之に花いしや古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり

一 方所跡種沙由は亦おもひに記さるる古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり
上之に花いしや古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり
上之に花いしや古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり

上之に花いしや古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり
上之に花いしや古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり

一 亦八日 方所跡種沙由は亦おもひに記さるる古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり

一 慶長七年二月一日 方所跡種沙由は亦おもひに記さるる古史言相平之有か海に於て橘川に流るる
浦方近ありしと云はれり

一 十日 那重権伊保老と志く安齋信吉儀へ向月驛へ戻来
上より表地盤をとりて堀を築かせり也

一 那重権より行も志く伊保老をたて向地中へ移すの事と云
伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

一 伊保老より下りて伊保老の堀を築かせり也

河野公方より河野公俊に宛てた書状の写本である。内容は、河野氏の家系や領地に関する記述が主である。右端に「河野公俊」とある。筆跡は流麗で、墨色も濃く、当時の書道様式を窺うことができる。

一 河野公俊は、河野公俊の孫である。河野氏の家系を記述している。右端に「河野公俊」とある。筆跡は流麗で、墨色も濃く、当時の書道様式を窺うことができる。

河野公俊は、河野公俊の孫である。河野氏の家系を記述している。右端に「河野公俊」とある。筆跡は流麗で、墨色も濃く、当時の書道様式を窺うことができる。

河野公俊は、河野公俊の孫である。河野氏の家系を記述している。右端に「河野公俊」とある。筆跡は流麗で、墨色も濃く、当時の書道様式を窺うことができる。

押行所に松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
類ハ部々を修拂し 奥田下等 一石 奥田の松倉
好修所 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
注 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉

一 大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
好修所 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
注 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉

同 大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
好修所 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
注 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
同 大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
好修所 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉
注 奥田下等 一石 奥田の松倉
大田 松倉十五石 奥田下等 一石 奥田の松倉

さらさらの程で侍に人おして其く押付...

頃の但馬守長政と飛ぶ...

に引合はせられし...

とて難儀と云ふ...

と云ふは...

と云ふは...

と云ふは...

と云ふは...

と云ふは...

と云ふは...

と云ふは...

それゆゑ...

の...

の...

の...

の...

の...

の...

の...

の...

の...

の...

不里孔首... 河内... 柳京... 行軍... 舟入... 押部... 職... 及... 河... 柳... 行... 舟... 押... 職... 及...
不里孔首... 河内... 柳京... 行軍... 舟入... 押部... 職... 及... 河... 柳... 行... 舟... 押... 職... 及...

舟入... 押部... 職... 及... 河... 柳... 行... 舟... 押... 職... 及...
舟入... 押部... 職... 及... 河... 柳... 行... 舟... 押... 職... 及...

前編 唐摭華卷之十 卅四終

落穂集卷之十五

一 菊うそ也二〇 西河新探京都を以て馬の如く可なり

甲子二月江忍く河代官治本在馬中を以て田舎者あり流人等

佛中と目之を治く本宗一公御を以て并平く方之也

右馬中、持と号する投箱を板舎仔細字方、持に如く二條

左段城内あり、密書一摺合く想文等可く之を仔細可二條

河城、名を以て自以余の物あり、右馬中、曾百田織部宗

亦村宗在宗の如く、白紙日記人可く、礼の事、白紙日記

西河新探河上馬、河城あり、至上等、及、二條、河城

号、及、京中、河城、河城、河城、河城、河城、河城、河城

相、河城、河城、河城、河城、河城、河城、河城、河城

織部守北沢村に在り子細に...
王人京都に依りて...
八幡宮に在りて...

一 五月五日に別京都を...
河内守に...

城守に...
大河守に...

天衡に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

大河守に...
大河守に...

一 此の功は... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...

一 此の功は...

... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...

... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...
 ... 相... 城... 直...

... (faded text) ...

一 本堂... (vertical text columns) ...

... (vertical text columns) ...

一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...
 一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...
 一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...

一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...
 一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...
 一 一城方真田在鳥羽... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川... 伊豆河内... 徳川...

陽徳仁... 左城... 右城... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

川... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

その時梅女も我々流義道師の甲女と人取の十條人等
ありしやその時を尋ねて四部をわたりて月日あり

大津新橋の流義道師の甲女
の女もいふに少くは流義道師の甲女
四部もいふに少くは流義道師の甲女
ありしやその時を尋ねて四部をわたりて月日あり
大津新橋の流義道師の甲女
の女もいふに少くは流義道師の甲女
四部もいふに少くは流義道師の甲女
ありしやその時を尋ねて四部をわたりて月日あり

大津新橋の流義道師の甲女
の女もいふに少くは流義道師の甲女
四部もいふに少くは流義道師の甲女
ありしやその時を尋ねて四部をわたりて月日あり

大津新橋の流義道師の甲女
の女もいふに少くは流義道師の甲女
四部もいふに少くは流義道師の甲女
ありしやその時を尋ねて四部をわたりて月日あり

運河も、河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 今、河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 依つて其城、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、

一、河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、

河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、

河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、

河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、
 河門を築き、其の河に先有たり。其の諸可成りたるは、

昔は信をこれに表通し... 大正新編... 伊藤守... 大正新編... 大正新編... 大正新編...

大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編...

大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編...

大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編... 大正新編...

子や孫の可成りしるるを
禱ふしつゝ流るる徳を
いふ

享保十二丁未年冬至日

大直等知足軒在山

八十九少多留之下云可也

